

# 建築家

# 通信

2018.3.31  
vol.117

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会  
JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>  
E-mail [info@jia-nagano.com](mailto:info@jia-nagano.com)

## 松本訪問随感記

中山 英之



講演会



中山先生作品より

卒業設計コンクール

JIA長野県クラブ建築祭で審査委員長等の大役を仰せつかって新宿駅から乗り込んだ特急あずさの車中は、ささやかな感慨を抱かせる時間でした。行き先が15年前、現場担当者として2年半を過ごした松本だったからです。担当していたのは1800席、4面舞台のフルスペックのオペラホールでした。当時の人口は約20万人。町と建物の規模のバランスには当然賛否両論あって、それならばと住民票を移し、2年目には選挙権も得ました。どこかで何か言われても「自分だって市民なのだ」と返すつもりでしたが、そんなことを言わせるような町ではなく、帰る頃にはすっかり、いっばしの市民になったような気持ちにさせられていました。ほぼアパートと現場小屋を往復するだけの毎日でしたが、わずかな空き時間に美ヶ原高原に自転車に登ったり、町のスポーツショップで発作的に道具を買い揃え、高校以来のスキーへ出かけたり、環境に背中を押されて、東京では決して思いつかないようなことをしました。全てが元に戻ってしまった今でも、時々無性にあの美ヶ原の空気を吸いたくなくなることがあります。

なぜこんな思い出話をしているのかというと、今回講演会場にひとりの人物が聞きに来てくれていたからです。その人物は当時、役所の担当者として施工の品質と工事の進捗をチェックする立場にありました。毎週の定例での彼の指摘は厳しく、少しの妥協も許さない徹底したものでした。地下水位の上がる春に掘削工事が当たり、極寒の真冬にコンクリートを打設しなければならなかった現場にあって、施工は困難を極めました。どんな仕事にも、人には見せたくないような場面というのはあるもので、それは施工チームだけでなく、監理している私たちにとっても同じです。けれども、耐圧盤の

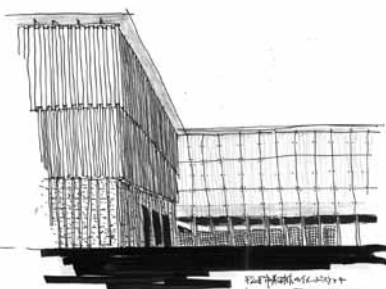
配筋の森でも、極寒の型枠の中でも、彼の眼から隠れることは決してできませんでした。それが初めての現場だった僕は、正確に図面を把握し、あらゆる数値を頭に入れて現場に現れる彼を、非情なほどに正しくて、そして冷たく感情のない、マシンのように感じていました。恐れていました。

講演が終わり、そろそろ会場を後にしようかと支度をしているときに、突然名前を呼ばれて振り向くと、そこにその人物は立っていました。一瞬にして色々なことが頭を過って固くなっていると、僕に手を差し出して「中山君の名前を見つけて嬉しくて来ました」と言うのではないですか。握手をしながら思わず涙がこぼれそうになるのをぐっと飲みこんでいると、現場が終わった後、あの仕事が雑誌に載ったり、そこで僕たち担当者が自分の署名で文章を書いたりしているのを読むことを楽しみにしていたこと。その後も建築雑誌をめくって、そこに同じ名前を見つける度に、がんばっているなと嬉しく思っていたことを話してくれました。次の予定への移動を促されてそれ以上の会話を交わすことができませんでした。もっとその場にいたら本当に泣き出してしまっていたでしょう。

翌日の審査を終えて、後ろ髪を引かれるような気持ちで乗ったあずさで、行きとはまた違った種類の感慨にふけりながら、缶ビールを飲みました。その土地に行かなければできない建築の仕事が僕は好きです。松本、きっとまた来たいです。



これまで松本市美術館との共同企画「みつめようくらしの場。ひと、まち、建築」の一環として開催してきた建築祭も、今年度からJIA長野県クラブの単独開催となりました。また、これを機会に今年度の建築祭では、文化講演会と学生卒業設計コンクールの他に、JIA長野県クラブや建築家の役割についても認知を広める機会とするため、会員作品展を同時開催することになりました。



会員作品展/建築家 宮本忠長展より

会員作品展「建築家 宮本忠長展」では、手書きのパスや普段見る事の出来ない多くのスケッチが展示され、建築家の思考や想いを一般の方にも知って頂く素晴らしい展示になりました。また、我々会員にとっても、当会の設立にご尽力いただいた宮本先生の足跡を辿り、業績を回顧する事で信州で活動する建築家の意味を問い直す良い機会となったのではないのでしょうか。

一日目の文化講演会には、建築家の中山英之先生をお迎えし、「これまでつってきたもの」と題してご講演をいただきました。東京藝術大学院での修士制作やコンペのプロジェクトなどを通して、想像力の大切さについてあらためて考えさせられるご講演でした。これから建築の道に進む学生にとっても建築を一から考える上での大きな力となったのではないかと思います。

二日目の学生卒業設計コンクールでは中山先生に審査員長として公開審査を行なって頂きました。本年度は高校の部25作品、専門学校の部14作品、大学の部10作品と大変多くの出品となりました。作品からは学生の熱気とともに、ご指導いただいている先生方の熱い想いも感じられたのが印象的でした。

また、今回は松本市美術館のご協力をいただき、一般の方の投票による市民賞も、例年同様多くの投票を頂き、学生にとって大きな励みとなったかと思えます。引き続き、市民に開いた事業の役割として継続していきたいと思えます。

次年度もJIA長野県クラブの単独開催となります。今後も会員の皆さんと一緒に、建築を通して社会に貢献出来る事業の在り方を探っていききたいと思います。

## 長野県卒業設計コンクール 受賞者の声

### 大学生金賞

信州大学総合理工学研究所 建築専攻 平岡 和磨

今回の長野県卒業設計コンクールで金賞という名誉ある賞を頂き、心から感謝申し上げます。

僕は今回、衰退しつつある地方商店街のウラの空間にサッカー場を挿入すると商店街が少しでも良くなるのではとのテーマで設計を行いました。

なぜスタジアムをテーマにしたかという高校時代、進路を決めるときにスタジアムの設計が行いたいという理由で建築学科を選びました。そのころから「自由に設計できる機会があればサッカー場を作ろう!」と心に決めていました。僕は、中学のころから気に入ったスタジアムがあればスケッチをし、それだけでは物足りず自分でかっこいいと思ったスタジアムを設計していたので必然かもしれません(笑)

僕は、四月から京都工芸繊維大学院で建築を学びます。今とは異なる環境で学んだ時にどのような答えが出るのかわかりませんが、将来建築家としてサッカースタジアムを設計したいと考えています。最後に今回のコンクールを設営運営していただいたJIA長野県クラブの皆様ご足労いただいた審査員の皆様誠にありがとうございました。



平岡さんと受賞作品

### 市民賞

信州大学総合理工学研究所 建築専攻 斉藤 知真

このたびは市民賞という素晴らしい賞をいただきましたこと感謝申し上げます。今回の設計では、長野でも問題となっている獣害に着目し、問題解決の一助となるような狩猟体験施設を提案しました。中山間地域を悩ませている獣害から集落を守り、無駄に処分されている獣の命の大切さを学ぶため、今、人と獣の共生が必要だと思いました。そこで自然と共生している山地木造建築の作品解説を基に、その共生手法を明らかにし、それらを用いてシシ垣と複数の狩猟施設の融合を考えました。この作品を制作する中で、提案したいプログラムと空間を両立させることの難しさ、図面と模型だけで全ての考えを伝えることの大変さを実感しました。まだまだ未熟な作品ですが、今回、市民の方から評価していただいたことを活力に、将来は地元である長野に建築家として貢献できるように、これからも精進していきたいと思えます。このたびは誠にありがとうございました。



斉藤さん受賞風景

### 高校の部

金賞	中山 陸	感情を共有する空間 #weeding
銀賞	藤原 駿輔	HISTORY MUSEUM ～松本城を中心とする城下町～
銅賞	大崎 優也	変化しつづける建築 人と人をつなげる橋
奨励賞	小林 聖果	菜宿 ～陽が包み込む柳町～

### 専門学校の部

金賞	神田 理奈/中村 早希	北斗のように
銀賞	伊藤 羽南	+COLOUR
銅賞	小須田 航	創の先に
奨励賞	柳原 大輝	つながり
奨励賞	木村 亮一	フントとガッセ

### 大学の部

金賞	平岡 和磨	取り壊される商店街に スタジアムを挿入する
銀賞	筒井 伸	スラム再建
銅賞	斉藤 知真	6話の狩猟物語
奨励賞	鈴木 巧	DEPARTMENT STORE 2.9
奨励賞	松本健太郎	ひしめく空箱

開催したイベント	2月17日(土)...	建築祭 文化講演会・会員作品展
	2月18日(日)...	建築祭 長野県学生卒業設計コンクール
	3月3日(土)...	信毎松本本社 現場見学会
	3月24日(土)...	北関東甲信越学生課題設計コンクール

今後の行事予定	4月10日(火)...	第5回幹事会
	4月20日(金)...	2018年度通常総会

**編集後記**  
今号は2/17・18に松本美術館において開催された第12回建築祭についてお送りします。初めての単独開催で事業委員会は苦労されたと思います。個人的には故宮本忠長先生のスケッチに感動したり、卒業設計コンクールでは真摯な学生さんにはろっしたり。卒業設計コンクールのことを中山先生が、活躍しているプロも学生も、同じ土俵で建築の事を語り合えるすばらしい場所だと仰っていました。  
2年間、会報を担当させていただきました。力の足りなさを痛感しました。お力添えいただいた皆様、目を通して下さった皆様、ありがとうございました。… 百瀬万里子  
皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

JIA  
公益社団法人日本建築家協会  
The Japan Institute of Architects

編集人/百瀬 万里子 発行人/山口 康憲  
発行所/JIA長野県クラブ  
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内  
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303  
<http://www.jia-nagano.com>  
E-mail [info@jia-nagano.com](mailto:info@jia-nagano.com)